

# わかすげ

題字 院長 神 雅彦



題 野辺地病院 山田 芳松・作

わかすげの由来：菅（すげ）は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には、菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅（職員）が地域医療の確保に一層努力することから。

## 基本理念

- ・患者さんの意思を尊重し、  
信頼される医療を提供します。
- ・研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- ・保健・福祉と連携し、  
心あたたまる医療を提供します。



## 巻頭言

### 医療事故対策について

副院長

高屋 誠章

平成11年1月某大学附属病院において発生した患者取違い事故を契機として、当時の厚生省は特定機能病院に安全管理体制の確保を義務付ける等の取組を行ってきました。しかしその後も相次ぐ事故が発生しており、平成12年各医療施設に医療事故防止対策を強化するよう県を通し、通知してきました。

当院でも医療事故の発生を防止し、患者様に適切かつ安全な医療を提供できるよう「医療事故防止対策委員会」が設置され、平成12年9月8日第1回目の委員会が開催されました。その後医療事故発生時の対応も含め、平成13年4月「医療事故防止マニュアル」を作成しております。

医療事故は、患者様に与える影響により0～5まで6つのレベルに分類されております。(図1) レベル0及び1はインシデント(ヒヤリ・ハット)といわれ、患者様に被害のない事例です。レベル2～5はアクシデントといわれ、患者様に何らかの被害を生じた事例です。

さて、1件の重大なアクシデント(レベル4～5)が発生するには軽度なアクシデント(レベル2～3)が29件、インシデント(ヒヤリ・ハット)が300件発生し

ているという有名なハインリッヒの法則(図2)があります。ヒヤリ・ハットの事例を分析することにより前もって事故を予防することができます。当院でも平成12年度63件、平成13年度61件、平成14年度は平成15年2月末まで69件のヒヤリ・ハットの報告がありました。当委員会でもこれらの事例を分析し、改善すべきところは改善し、医療事故が1件でも少なくなるよう対策を考え、実行しております。

又不幸にして事故が発生した場合には、早期発見につとめ、適切な回復処置をし重篤な転帰にならないような体制をとるように研究努力しております(図3)。

図4は2002年厚生労働省医政局のヒューマンエラー一部会が策定したものです。人は間違えることを前提として、システムを構築し機能させる事の重要性を提言しております。医療者が患者様に十分な説明や質問に答えることにより、患者様が自分の病気や医療内容をよく理解することにより、薬の取違い等は最終的に患者様がチェックすることにより、事故の発生が予防できます。又、最近の医療は一人の患者様の検査治療等に多くの部門の人が関与するチーム医療が中心です。各部門の人々が疑問に思った事、変だと気づいた事を互いに率直に話し合える「風通し」のよい職場づくりも医療事故防止には必要です。

当委員会は月1回の定例会を開催しております。患者様、町民の方々、又職員の皆さまのご意見がございましたら当委員会にお知らせ下さるようお願い申し上げます(当院医事課に提出して下さい)。

図1

図2

図3

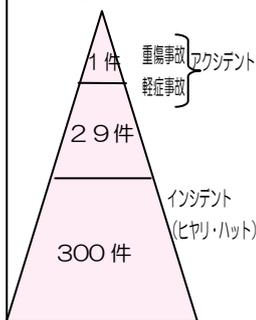
図4

### 医療事故レベル

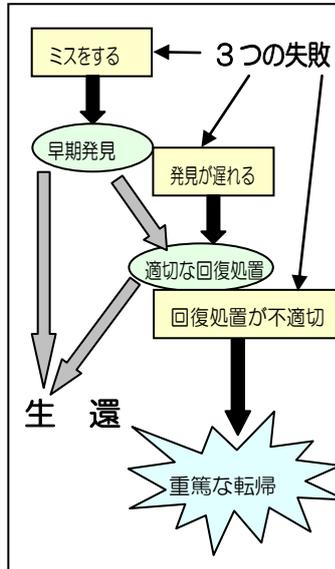
- レベル0：間違いが発生したが、患者には実施されなかった場合。
- レベル1：事故により患者様への実害が無かったが、何らかの影響を与えた可能性があり、観察の強化又は心身への配慮が生じた場合
- レベル2：事故により患者様への観察と強化とバイタルサインに変化が生じた。若しくは、検査の必要が生じた。
- レベル3：事故のための治療の必要性が生じた場合、又は、必要としない治療、処置の必要が生じた場合。
- レベル4：事故による障害が一生継続するか、数年にわたる場合。
- レベル5：事故が死因になった場合。

### ハインリッヒの法則

米国労災保険会社研究部長の労働災害事例からの経験例



→ヒヤリ・ハットから学び、前もって事故を予防する



### 安全な医療を提供するための10の要点

- ① 根づかせよう安全文化 みんなの努力と活かすシステム
- ② 安全高める患者の参加 対話が深める互いの理解
- ③ 共有しよう 私の経験 活用しよう あなたの教訓
- ④ 規則と手順決めて守って見直して 意見かわせる 職場をつくる
- ⑤ 部門の壁を乗り越えて 意見かわせる 職場をつくる
- ⑥ 先の危険を考えて 要点おさえて しっかり確認
- ⑦ 自分自身の健康管理 医療人の第1歩
- ⑧ 事故予防技術と工夫も取り入れて
- ⑨ 患者と薬を再確認 用法・用量 気をつけて
- ⑩ 整えよう療養環境 つくりあげよう作業環境

# 新ドクター紹介



内科医長  
水木 一郎先生

1. 出身地 青森市
2. 生年月日 昭和42年10月20日
3. 趣味 格闘技観戦
4. 座右の銘 元気があれば何でもできる
5. 抱負 消化器系以外の疾患を学んでいきたいと思ひます。



整形外科副医長  
鈴木 雅博先生

1. 出身地 岩手県水沢市
2. 生年月日 昭和47年8月18日
3. 趣味 ドライブ
4. 座右の銘 一日一善
5. 抱負 がんばります。

## 長い間お疲れ様でした！

内科医長 小野 ふさ子先生  
弘前市 鳴海病院へ

整形外科副医長 板橋 泰斗先生  
富山県 高岡整志会病院へ

それぞれ異動することになりました。  
これからも元気で頑張ってください！



## OB便利 野辺地病院、野球の思い出

第6代院長  
斉藤 茂

その昔、野辺地病院（もと、新町にあった時代）、は職場野球では、常に野辺地営林署で、相いまみえる事、春、秋5回何れも勝ち続けたことを誇りに思う。

又、第3回、北日本親睦野球大会で、念願の優勝を勝ち得たことを、今では、夢の様に思う。厚生連大会でも、何度か優勝した。

何れにしても、娯楽の少い、スポーツの多くない時代に、良い仲間にもぐまれたからだと思う。

これ等によって、病院のチームワークが生まれ、病院復興のもとになったのだと思う。

八戸から、煎餅や、乾しがれいを運んでくれた沼田薬局長も亡くなり、X線のおじちゃん、蛭沢さんも、菊池事務長も亡くなった。

時代は確かに、変って次の時代になった。子供も、教授となり、子供、子供と呼べなくなった事も、その一環である。

新しい院長も、内科的センスで、外科療法を行う逞しい構想を持つ事は、素敵な事である。再興となった「わかすげ」も、その一点と思う。

この様にして、時代は変っていくのである。



昭和43年頃



## 職場紹介

### 薬剤科 薬剤科 金澤 和美

私が当院薬剤科へ勤務するようになってから、今年の3月でまる6年、その間に医療法改正等の時代の流れに伴い、当院でも処方箋の全面院外発行が実施され、薬剤科の業務内容もガラリと変わりました。それまでは、陸の孤島の薬局にこもり、日々1日の大半を調剤に精を出していた私達も、現在は病棟へ、外来へと仕事の場が広がっています。

業務の内容を大まかに分けると、

- ①医薬品の払い出しから管理、情報に関する業務
- ②薬剤管理指導業務

となり、これをもとに7名の薬剤師で遂行していますが、ここでは中心的業務になりつつある②を紹介したいと思います。当初、試験的に始めた病棟で配薬をしながらの服薬指導も現在は軌道に乗り、患者様と毎日顔を合わせ、コミュニケーションを図ることにより、指導も充実してきたと自負しています。また、在宅における訪問薬剤指導や、日本糖尿病療養指導士の認定をうけた阿部副薬剤長が糖尿病教室に参加するなど、新たな業務へも取り組んでいるところです。

他科スタッフと一緒に仕事をする機会も増え、交流も以前より広がったように思いますが、薬剤科スタッフの素顔(?)をご存じない方も多いと思いますので、ここで私の日々の観察に基づき独断と偏見で紹介させていただきます。

まずは、みなさんご存知の平川薬剤長(ボーリングが上手い!マイシューズ&マイボールは持っていないようですが…)、酒と波をこよなく愛する阿部副薬



剤長(食べ物にはけっこううさ。おいしい店なら彼に聞けといったところでしょうか?)、マックを操る進藤薬剤師(実はアウトドア派。そしてかなりの旅行好きらしい。めざすは全国制覇!?)、明るくきれいと評判の渡邊薬剤師(チャキチャキの津軽っ子。青森ねふたを全夜跳ねたという記録を持つとか…?)、いつもおだやかで優しい木村薬剤師(薬剤科でも3本の指に入るいい男との噂!?)、先日第1子が誕生した能登谷薬剤師(大のサッカー好き。目指すはバジオのような渋い男?)、そして私、金澤和美(ただいま花嫁修業中。この先一体いつまで修行し続けるのかは不明ですが…)

このようになかなか個性豊かな薬剤科ですが、全員で力を合わせ医療の担い手として、顔の見える薬剤師をめざし日々研鑽していきたくと思っています。

最後に薬剤科からのお知らせです。第1火曜日と第3金曜日の12時から13時まで、3階講義室においてインシュリン相談室を開いています。インシュリン注射、またはそれにまつわる様々な悩みなど、どんなささいな質問でも受け付けておりますので、周囲に悩める方がいましたら紹介して下さいますようお願いいたします。

### 南2階病棟 看護長 大山 庄子

私が配置換になって6ヶ月目を迎えた、南2階病棟の紹介をしたいと思います。

我が病棟は、慢性期疾患を主とする病床数52の内科(時には眼科も入院します)病棟です。ディルームや面会室には、花や小さな鉢植えが置かれ、患者様の安らぎの場となっております。

当院には3人の内科医がおりますが、午前中は外来診療と検査、午後は病棟回診と検査、そして、諸検査の検討会議と、毎日ハードなスケジュールをこなしております。当病棟は渡辺副院長、小野医長を中心に看護スタッフ22名で頑張っております。

入退院が激しく、入院の無い日は年間何日もありません。年齢層は、高齢者が多く、社会の高齢化をひしひしと感じております。

スタッフは、始業時間前から勤務準備に入り、業務の確認、カルテより受持ち患者様の情報収集等、仕事



に対して意欲的です。朝の申し送りが終わると同時にこまねずみのように忙しく動き回ります。新人からベテランまで看護師層のバランスが保たれています。黙々と仕事をするタイプが多く、時には患者様から誤解を招くこともあります。それぞれの持ち味を発揮し、人間味のある温かい看護の提供に心がけています。「寝たきりにさせたくない」「ボケさせたくない」「退院時は歩いて帰っていただきたい」等の思いで接することが、「おしつけ」「口調がきつい」「冷たい」等、誤解となり、患者様又は御家族の方々からご指摘を受ける事もあります。あくまでも患者様、ご家族を思っている事ですが、何か足りず「誤解された」と謙虚に受けとめ反省しております。

私達、看護職についている者の喜びは、患者様が「家に帰れる」と喜び、それを見送る時です。患者様のあの喜びの顔は何とも表現しがたく、私達にも、この職についた事への充実感を味わせてくれます。しかし、一方では、家族の願いもむなしく、旅立たれる方もいます。「家のおじいちゃんの人生は、いい人生だったネ」と旅立たれたおじいちゃんに話しかけているご家族を見て、家に帰してあげられなかった無念さに、言葉もなかつた黙とうを捧げ、涙が止まらなかったことを覚えています。

職業として看護の道を選んだ私達ですが、マニュアル通りにいかない事ばかりです。患者様、ご家族との関わりを通し、いろいろな事を学び、成長させていただいております。知恵を出し合い、患者様のためによい看護を提供できるよう、さらにチームワークを強め、お互いを高める努力を続けていきたくと思っています。

(平成15年3月15日)

## ◆メンタル・クリニック新設◆

当院では、平成 15 年 4 月からメンタル・クリニックを新設することになりました。

診療日 隔週月曜日(院内に掲示)

受付時間 13 時 30 分から 15 時 30 分まで

診療医師 青森県立保健大学

田崎 博一教授(精神医学)

心身症及び精神的疾患でお悩みの方は、相談に  
おいで下さい。

## 小児科診療日変更のお知らせ

- 診療は、月曜日から金曜日までの午前中及び第 2、第 4 土曜日です。
- 診療受付は、午前 11 時 30 分までです。
- 夜間は当直医師の診療となりますので、入院を要する重症患者さんについては、転院をお願いする場合があります。

問合せ先 公立野辺地病院 医事課  
0175-64-3211

## 療養病棟クリスマス会

12月24日に療養病棟のクリスマス会が開かれました。今回は、びわの幼稚園の園児たちが、参加してくれました。かわいらしい歌や踊りに患者さんたちは、楽しいひとときを過ごしました。



## ミニギャラリー情報

洞内タケさん(元看護婦長)から、たくさんのちぎり絵を寄贈いただきました。本館3階病棟と4階療養病棟の廊下に展示してあります。作者の気持ちが表れた素敵な作品ばかりです。温かくてやさしい色合いの花や風景は、見る人の気持ちを和ませてくれます。

また、写真と絵画の展示も、季節感あふれる作品に交換していただきました。実力派揃いの力作を、じっくりとごらんください。



本館3階病棟



本館4階病棟

## 出産祝い弁当始めます!

栄養科では4月から、当院でご出産された方に、ささやかですが、お祝いのお食事をご用意することになりました。



## 原稿募集のお知らせ

「わかすげ」編集部では、広く読者の皆様から原稿を募集します。病院に対するご意見、ご感想、詩、俳句、短歌など、ご応募お待ちしております。

## 編集後記

人生が大きく転換する異動の時期、去る人来る人、泣く人笑う人。中でも与えられた仕事を全うして、めでたく定年退職を迎えられた方は、胸打ち震え心中複雑極まりないことでしょう。ある種の緊張からの開放感と同時に一抹の寂しさと虚脱感。迫りくる加齢との共存、何歳をもって老人というのか、その決まりはない。自身の気持ち次第でいつまでも若くいられる。誰もが通る道。この世に生を受けたことに、感謝できるような一生でありたいものと、切に願うものです。

さて、月日の流れはますます速く、「わかすげ」第1号を発刊してから1年が経ちました。皆様のご協力により、ここに第3号を発刊できたことを、心から嬉しく思います。お忙しい中、原稿をお寄せくださった方々に、深く感謝を申し上げます。

(平成15年3月 Y・T)

## 編集委員

相澤 治孝(医局)	四戸 巧(医事課)
敦賀 俊彦(検査科)	四戸 まるみ(看護局)
阿部 俊郎(薬剤科)	松村 明美(看護局)
前田 ひとみ(看護局)	清水目 健一(管理課)
成田 一教(管理課)	

平成15年4月30日発行

広報「わかすげ」第3号

発行：北部上北広域事務組合  
公立野辺地病院

〒039-3141

青森県上北郡野辺地町字鳴沢9-12